



シャディ株式会社

経営基盤の強化に向けて 情報系システムを共同利用型へ再構築 DWHアプライアンスで処理速度とコスト効率を向上

■要件

経営基盤の強化の一環として、販売データの分析などに使っている情報系システムを再構築する。関連会社とのシステム共同利用において、運用負荷の増大や性能劣化を回避できる仕組みを求めた。

■ソリューション

永続性・独立性が高いセントラルウェアハウス (CWH) をベースに新システムを設計。分析用中間ファイルの設計・メンテナンスといった運用負荷を減らし、実績のある製品・技術を用いて効率良く性能を上げる。

■成果

新システムの稼働により、中間ファイルは1割以下に削減し、処理速度も格段に向上したことで、最新状況の分析が柔軟に実施できるようになった。現在進めている基幹システムの刷新に合わせて、今後も機能を強化する。

最新販売状況の把握に不可欠な情報系システムの再構築を検討

冠婚葬祭やお歳暮・お中元はもとより、お祝いや記念日などで、人とのあたたかい心をつなぐギフト。同市場で大手のシャディは全国約3000店に及ぶ店舗網を核に、カタログ/インターネット/モバイルといった多様な販促チャネルを使って事業を展開している。

ギフト市場も最近に変化が激しい。カタログ発刊や季節のイベントの度に、最新の販売状況を調べ、対応することが重要になっている。

取締役 システム部 部長の楠明氏は「2006年に最初の情報系システムを構築してから、データに基づいて業務を進める体制を作ってきました。販売施策立案やカタログの改善、チェーン店への情報提供といった多彩な業務で活用しています」と語る。

しかし、以前のシステムは活用が進むにつれ、いくつかの課題が表れ始めていた。

まず運用負荷が増大していた。従来のシステムは、データウェアハウス

(DWH) から、集計データマートといった分析用の中間ファイルを作成し、そこへ分析ツールがアクセスする仕組みが基本になっていた。分析内容の多様化に伴って、中間ファイルは300近くに増大し、検索機能もC/S形式のスクラッチ開発だった。そのため、設計やメンテナンスの負荷が軽視できなくなっていたという。

もう一つは処理速度への不満だ。DWHには、1日数千万件のPOSデータが蓄積されるため、経年変化を調べる分析に時間がかかっていた。特にDWHの生データへ直接アクセスする自由分析で著しく、20分以上を要する場合も珍しくなかった。

そこでシャディは、そうした課題を解消しながら、経営基盤の強化に向けて、関連会社のエニシル、スリーハート・コーポレーションを含めた3社が共同で利用する新システムの構築を検討する。

ソリューションの選定には時間をかけたという。最終的にITベンダー3社の提案を評価した結果、シャディが選択したのが、新日鉄ソリューシ

ョンズの提案である。選定理由を、システム部 システム2課 マネージャーの興津英二氏は「中間ファイルのような、設計が難しく運用負荷が重い要素を減らしながら、よく売れている製品や標準的な技術を使って、コスト効率を高める内容でした」と語る。

実績のある製品・技術をベースにコスト効率の高いシステムを構築

新日鉄ソリューションズの提案は、業務系システムなどが変更されてもデータを継続的に保持できる永続性と分析ツールに対する独立性を備えたセントラルウェアハウス (CWH) を軸に設計されていた。汎用的で柔軟性を持ったBIツールを組み合わせることで、分析ツールから生データへ直接アクセスしてもレスポンスが良く、新たな検索ニーズへも柔軟に対応できるようになっている。

実装面では、中核となるデータベースサーバーにDWHアプライアンス大手日本ネテッサの Netezza TwinFinを採用。さらに、分析ツ



シャディ株式会社
取締役
システム部
部長
楠明氏



シャディ株式会社
システム部
システム2課
マネージャー
興津英二氏



シャディ株式会社
システム部
システム2課
豊永久義氏

ルには実績のある日本オラクルの Oracle BIEEを、データの取り込みでは新日鉄ソリューションズがJavaや標準SQLを基に開発したNSSOL-ETLフレームワークを使う。

加えて、新日鉄ソリューションズは、提案時に実データを用いた性能検証を実施した。これによって現状より大幅に性能が向上することがシステム構築前に実証されている。

新システムの構築は2009年11月に始まった。基本設計、開発環境の構築、総合テスト/運用テストやデータ移行を経て、当初の予定通り2010年6月に新システム「HIT Quicks」は稼働を開始している。

約8カ月の開発期間にわたり、新日鉄ソリューションズは、定例会議などで出た課題にきめ細かく対応するとともに、シャディと密接にコミュニケーションをとった。

当時の様子をシステム部 システム2課の豊永久義氏は「顧客とベンダーという壁を越えて、いつでも気軽に相談できました。定例会議の後に追加で送った質問にも当日中に返事が

来るなど、レスポンスの良さも印象に残っています」と語る。

新システムは現在、安定稼働し、期待通りの成果を上げている。

定型分析については瞬時に結果を得られるほか、以前は20分以上かかった自由分析が1分以内で終了するなど、性能がけた違いに向上しているケースもある。

大量データも1分以内に分析 クライアント管理も容易に

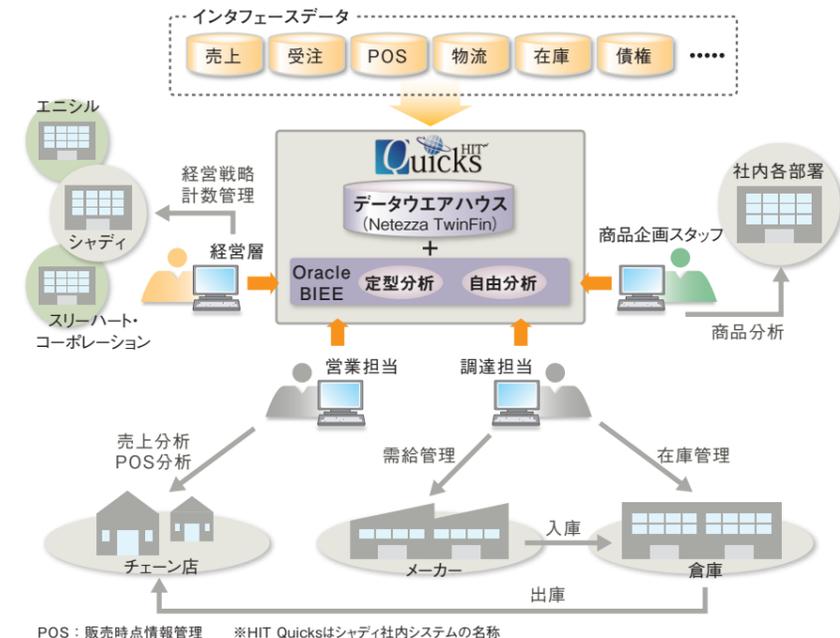
運用負荷も大幅に軽減した。中間ファイルは、以前の1割以下に削減されており、中間ファイルを作成・メンテナンスする負荷もそれに比例して減少している。

クライアント管理も容易になった。分析ツールはクライアントPCからWebブラウザだけで利用でき、追加ソフトの導入は不要である。

シャディの経営基盤の強化に向けたシステム再構築は、この情報系システムを含め、2011年4月に予定している新基幹システムの稼働で完成を迎える。情報系システムについても、新基幹システムを支援する機能や、ユーザーの要望に基づく新機能を追加する計画だ。

楠氏は「計画通り経営基盤強化の第一歩を踏み出せました。今後は、これまで以上に幅広いユーザーが業務でデータを活用できるようにしていきたい」と述べる。

■シャディが関連会社間で共同利用しているHIT Quicksの概要



- コアテクノロジー
BI、DWHアプライアンス、NSSOL-ETLフレームワーク
- システム概要
 - サーバー：BIEEサーバー (Windows) ×1、DWHサーバー×1 (Netezza TwinFin) など
 - 分析ツール：Oracle Business Intelligence Suite Enterprise Edition Plus (Oracle BIEE)
 - クライアント：750ユーザー